

精神障害を持つ妊産婦と家族への看護ケアと多職種・多機関連携による支援

○玉木 敦子¹⁾、蒲池あずさ²⁾、高橋 秋絵¹⁾、八田 篤郎³⁾、松岡 裕美⁴⁾、松長 麻美⁵⁾、山田 顕子⁶⁾

1) 神戸女子大学 看護学部 看護学科、2) 北里大学北里研究所病院 看護部、3) 医療法人尚生会 湊川病院、4) 東京科学大学病院 メンタルヘルス・リエゾンセンター、5) 東京科学大学大学院 保健衛生学研究科、6) 神戸市立西神戸医療センター 看護部

【背景と目的】

周産期は身体的・心理的・社会的に大きく変化する時期ですが、近年は超少子化を背景に妊産婦の孤立・孤独が社会問題となっているなど、妊産婦を取り巻く状況はさらに厳しくなっています。このような背景の中、多くの妊産婦が高いストレスや精神的不調を感じていますが、特に精神疾患の既往をもつ場合、ストレスへの脆弱性があるため、妊娠・出産・子育てを通して、精神状態が悪化、あるいは再発するリスクも高まります。母親の精神状態の悪化は、母親自身の苦悩、生活・育児の困難、自殺リスクを増すことに留まらず、胎児・新生児の発達、母子の愛着、パートナーのメンタルヘルスや関係性にも有意に影響することが報告されています。そのため、精神科医療、産科医療、地域母子保健など、多職種・多機関が連携しながら、妊産婦とその家族を積極的に支援することが求められます。ただし、精神科医療に携わる看護職は「妊産婦へのケア」に、母子保健や産科医療に携わる看護職は「精神障害をもつ人へのケア」に困難を感じることも少なくないのではないのでしょうか。また他の職種や機関とのどのように連携すればよいのか戸惑うことも多くあると思います。

このワークショップでは、妊娠前から精神疾患の既往がある妊産婦とその家族への支援、また多職種・多職種との連携について、セルフケアモデルを手がかりにしながら、皆さまと共に学び、またディスカッションを通して理解を深めたいと考えています。なお、前回大会のワークショップでは、統合失調症をもつ母親を対象に支援を検討しましたが、今回は双極症をもつ母親とその家族への支援について、ケースワークの視点からも検討したいと思っています。

【内容】

1. セルフケアモデルに基づいた妊産婦への看護ケアと多職種連携について（講義）
2. 架空事例を用いたグループワーク（双極症をもつ母親の生活・育児上の困難、母親、児、父親のケア・ニーズ、支援方法、及び多職種・多機関との連携について）

【倫理的配慮】

グループワークは架空事例を用いますが、倫理的配慮として、このワークショップの中でお話し頂いた個人情報、ワークショップの中だけで扱い、外にその情報を漏らさないように、ワークショップの最初に約束させていただきます。